

天気と気温① **答え例** 組 名前 ()

*気温（空気の温度）は場所によりちがうので、正しいはかり方について、教科書 P210~P211 を見てまとめましょう。

①まわりがよくひらけた（**風通しのよい**）ところではかる。

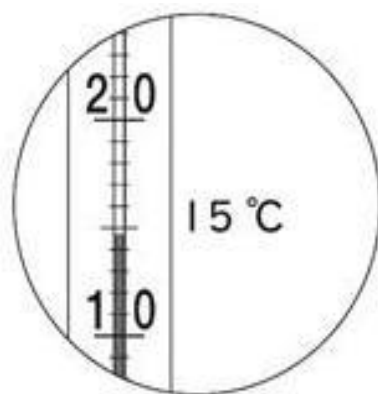
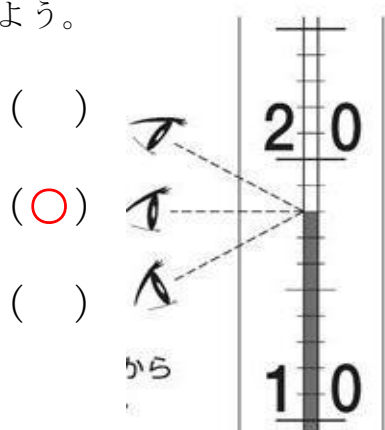
②地面から（**1.2**）m～（**1.5**）mの高さではかる。

③日光が温度計に（**直せつ当たらない**）ようにする。
おおいをかぶせたりして温度計が日かげに入るようにする。

④温度計の目もりは（**まよこ真横**）から見て読む。

正しい見方の（ ）

に○をつけよう。



えきの先が目もりの線と線の間にあるときは近い方の目もりを読む。
この場合は（**15**）℃になる。

⑤教科書 P11 を見て書きましょう。



*左のものは、同じじょうゆけで気温がはかれるようくふうされたもので（**百葉箱**）という。



中には自記温度計が入っている。1日の気温を連続して記録できる。

天気と気温② **答え例** 組 名前 ()

①NHK for school 〈ふしぎがいっぱい4年生〉の「春の1日」10分の番組とそこにあるクリップえいぞう「天気と気温の変化」2:23(2分23秒)を見ましょう。

②教科書 **P14 たしかめよう** をしましょう。

①はヒント：天気と気温①のプリントを見よう。

日光が温度計に直接当たってしまうと、温度計が日光であたためられてしまい、気温を正しくはかることができないから。

②はヒント：天気と気温①のプリントを見よう。

気温とは、日光が直せつ温度計に当たらないようにし、風通しがよい場所で、地面からの高さが **1.2~1.5m** の位置ではかった空気の温度のことである。

③はヒント：教科書 P13 を見ましょう。

晴れの日：右のグラフ。雨の日：左のグラフ。

左のグラフは1日の気温の変化が小さいことから雨の日のグラフであると考えられる。また、右のグラフは、1日の気温の変化が大きいことから晴れの日グラフだと考えられる。

③教科書 **P15 学んだことを生かそう** をしましょう。

①はヒント：教科書 P13 を見ましょう。

午前**6時**ころから午前**10時**ころまで気温は上がっている。その後は気温があまり変化していない。このことから、天気は **晴れ** から **くもり** (雨でもよい) に変わったと考えられる。